opusdei.org

聖ホセマリアの生涯 - 16

ホセマリア・エスクリバーは 病人援護会の仕事を辞めたあ とも病人への奉仕を続けま す。

2023/07/20

過去の記事はこちらから

1931年秋、聖ホセマリアは病人援護会の仕事を辞めます。これによって定期的に病人とふれあうことがなくなるのですが、新しい職場の聖イサベル修道院で病人訪問を目的とする

この困難な活動に、神父は自分が霊的に指導している青年たちを連れて行きました。彼らはそういう仕事には不慣れな人たちで、訪問を終わって帰途につくとき、悪臭やおぞましい傷や膿を思い出して、外に出るや嘔吐する者もいました。

その青年の一人にルイス・ゴルドン という裕福で前途有望な若者がいま した。ある日曜日、聖ホセマリアは 結核患者の面倒を見ながら、ルイスに変しています。に頼みませれる。 はその壺を見て一瞬顔を患させれる。 はその壺を見て一瞬ででではない。 はそのったでです。 はではないはいないでです。 はないはあれるではいないはある。 はではないないはいないはいない。 はいないないはいないないです。 はいないです。 はいないです。 はいないないです。 はいないないないです。 はいないです。 はいないないです。 はいないです。 はいないです。 はいないです。 はいないです。 はいないです。 はいないです。 はいないです。 はいないにします。

マドリッド郊外に王立病院という感 染病患者のための病院がありまし た。そこに指導司祭をしていたったって オセ・マリア・ソモアノという神 で、で、でイについて聞くとすぐについ 本質を理解し、全面的に協力いたる 本質を理解した。世話をしてるよう になりました。世話をして意した ために捧げるよう頼むと、みならん でそうするようになっていきました。

聖ホセマリアはこの他にも複数の となりましたようになりませるようになられるでいました。 「私は悪したがあれるがあれるがあれるがあれるがあれるがあれるがあれるがあれるがあれるがある。 「私はますがあれるがあれるがのいかでした。 を表すれるがのないながのないがのないながのない。 を表すながのないないがのでした。 は、遺るというによるがいた。 に、したいたいでした。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/sei-josemaria-16/ (2025/11/21)